

政策体系	基本目標名	02	新たな流れの創造による賑わうまちづくり	施策主管課長	スポーツ推進課
	政策名	02	スポーツを軸とした人々が集まるまちづくり		
	施策名	01	スポーツツーリズムの推進		
施策関係課	広報ブランド推進課、市民生活課、産業政策課、農政課、農山村振興課、観光推進課			福嶋 英樹	

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標設定の考え方	
	①国内(特に関東)に居住する人、インバウンド訪日者 ②市民 ③市内事業所 ④スポーツイベント等で使用される施設・スポット等	① 関東地方1都6県の人口 ② 市人口 ③ 事業所数(H28経済センサス調査) ④ 市有スポーツ施設	千人 人 社 施設	43,535 115,700 6,242 42	- - - -	- - - -	- - - -		
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)	区分	単位	R4	R5	R6	R7	成果指標の取得方法
	①スポーツをきっかけに佐野市を訪れてもらう。 ②スポーツボランティア等でスポーツに関わり、おもてなしの心でスポーツツーリストを受け入れる。 ③スポーツツーリズムを盛り上げることで、地域の稼ぐ力をつけ、活性化につなげる。 ④本市のスポーツ資源を生かしたスポーツ大会、合宿等が実施される。	① 宿泊者のあるスポーツ大会又は合宿の数 ② スポーツイベント又は合宿への市外参加者数 ③ スポーツ大会、イベント等に協力するボランティア数(延べ数) ④ スポーツ目的で本市に来訪した人の域内消費額	目標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 実績	件 人 人 千円	10 28 600 323 165,000 108,558	20 - 1,200 - 195,000 -	30 - 1,500 - 225,000 -	40 - 1,800 - 255,000 -	

①②③スポーツツーリズムの経済効果を地域の活性化につなげるのが施策の目的であるので、ツーリストの呼び込みにつながるスポーツ大会等の開催回数と大会等に市外から参加した人数、また、大会等を盛り立てるために協力してくれたボランティアの人数を成果指標とした。
④スポーツツーリズムによる地域経済、市民生活等への波及効果を確保するため、スポーツ目的で本市に来訪した人の宿泊、飲食、観光等の消費額を成果指標とした。

① スポーツ立市推進課資料(関連スポーツ団体、市スポーツ)
② スポーツ立市推進課資料(関連スポーツ団体、市スポーツ)
③ スポーツ立市推進課資料(市内スポーツ団体及びスポーツ)
④ スポーツ立市推進課資料

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	R4	R5	R6	R7	
スポーツツーリズムの推進	①スポーツツーリスト ②市民、事業者 ③スポーツ施設	①スポーツ大会等が提供される。 ②スポーツツーリズムがもたらす経済効果享受する ③施設利用により、交流人口の拡大、経済効果が高まる	① 誘致などした大会、合宿数	目標 実績	件	8 11	12 -	16 -	20 -	スポーツを支える環境づくり	①市民 ②スポーツ団体	①スポーツボランティアとして大会、イベントに関わる。 ②スポーツボランティアが活動する場を提供できる。	① スポーツ大会等ボランティア数	目標 実績	人	600 323	1,200 -	1,500 -	1,800 -	
			② スポーツイベント等の市外参加者数	目標 実績	人	5,500 7,241	6,500 -	7,500 -	8,500 -				② ボランティア参加の大会等	目標 実績	件	5 4	10 -	15 -	20 -	
			③ 市主催イベント等	目標 実績	社	20 67	30 -	40 -	50 -				③ 登録ボランティア数	目標 実績	人	150 51	150 -	155 -	155 -	
			④	目標 実績										④	目標 実績					
クリケットを活用した地域活性化の推進	①クリケット場来場者 ②市民、事業者 ③クリケット関連人材	①クリケット場に来場してもらう。 ②クリケットをきっかけにした地域活性化、経済活動につなげる。 ③本市に移住・定住してもらう。	① 市クリケット場来場者数	目標 実績	人	10,000 39,889	12,000 -	14,000 -	16,000 -				①	目標 実績						
			② クリケット関連の域内消費額	目標 実績	千円	60,000 51,804	65,000 -	70,000 -	75,000 -				②	目標 実績						
			③ クリケット関連移住・定住者数	目標 実績	人	5 2	5 -	5 -	5 -				③	目標 実績						
			④	目標 実績									④	目標 実績						

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	令和4年度施策の取組方針		施策の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 感染状況に応じた施設の利用を図るとともに、ツーリストに対しても必要な情報を発信する。 クリケット場の維持管理や運営の手法、旧田沼高校の校舎や体育館等の利活用等を含め、国際クリケット場等の将来像を検討する。 スポーツボランティアが活躍する場を拡大するとともに、スポーツボランティアの魅力を生かし、大会・イベント等を実施するスポーツ団体とボランティアを結び制度を構築する。 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会に向けたより一層の機運の醸成と実施体制の確立を図る。 	<input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成	<input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成	【施策の取組方針達成状況】 ・施設内は業種別ガイドラインや基本的感染対策を実施しながら利用と情報発信を図った。 ・クリケット場利活用について、関係各課による検討会を実施したが旧田沼高校の利活用方針が決定されていない。市内事業所等との連携した活用では、田沼ふるさと祭りを開催することができた。 ・コロナ禍により活躍するイベント等が限られた状況であったため、登録制度の理解促進が図られていない。 ・大会開催種目のスポーツ教室や大学ラグビー早慶戦を開催し、市民の気運醸成を高めることができた。実施体制の確立については、市職員、関係団体及びボランティアと連携し大会を受け入れる体制づくりを行った。 【成果指標達成状況】 ・①は、日本クリケット協会の誘致活動及び石井琢朗杯等の開催により、コロナ禍においても目標を大きく上回り達成することができた。②においても上記と同様である。 ・③は、コロナ禍によりボランティアが活躍するイベント等が限られた状況であったため、目標600人に対して実績323人で未達成であった。 ・④は、ネット配信収入及び入場料等で56,000千円を見込んでいたが、現状では収入がないため、目標165,000千円に対して実績108,558千円で未達成であった。		
基本事業	基本事業名	令和4年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況	基本事業名	令和4年度基本事業の取組方針	基本事業の取組方針・成果指標達成状況
	スポーツツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> 市国体実行委員会を盛り立て、国体開催の機運醸成を図るとともに、競技団体と連携し競技会の開催、県実行委員会や事業者と連携し選手・関係者の宿泊・会場輸送事務に協力する。 さのマラソン大会、大澤駅伝競走大会等の開催や、スポーツ大会の実施や合宿を招致し、域内消費額の増加や地域の活性化につなげる。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input checked="" type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組達成状況】 ・国体関係者が一同に会する実行委員会総会を開催し、機運醸成を図り、選手監督関係者を温かくお迎えするムードを形成することができた。また、県実行委員会等と連携し、選手監督の宿泊手配、輸送体制を確立した。また、日本代表の合宿も誘致した。 ・さのマラソン大会等において、市外からの参加者に消費を促すような魅力的な発信が行えなかった。クリケット関係の宿泊者については1,382名16,584千円の消費額であった。 【成果指標達成状況】 ・①は、日本クリケット協会の誘致活動及び石井琢朗杯等の開催により目標は達成した。②も上記と同様である。 ・③は、市内企業等への訪問、目的を説明したことにより目標を達成した。	スポーツを支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」に協力するボランティアを確保し、市を挙げて心のこもったおもてなしを行う。 さのマラソン大会や大澤駅伝競走大会等で市民ボランティアが活躍できるよう見直しを行い、ボランティア登録者を増やす。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input checked="" type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組達成状況】 ・令和2年1月からボランティア募集を開始し、市内外から登録いただいた結果、国体期間中は延べ195名の活躍のもと、競技会場来場者をおもてなしすることができた。 ・コロナ禍により活躍するイベント等が限られた状況であったため、登録制度の理解促進が図られていない。 【成果指標達成状況】 ・①は、ボランティアが活躍するイベント等が限られた状況であったため、目標600人に対して実績323人で未達成であった。 ・②は、新型コロナウイルスの影響により中止となった大会もあることから、未達成であった。 ・③は、スポーツボランティアの理解が促進されるような発信(SNS等)が行えていなかったため、登録制度が進んでいない。
クリケットを活用した地域活性化の推進	<ul style="list-style-type: none"> クリケット協会と連携し国際大会等の誘致を図り、本市の魅力や国内外に発信し、経済、産業、観光、国際交流等の推進に繋げる。 	取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input checked="" type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 【基本事業の取組達成状況】 ・日本クリケット協会と連携し、国際大会等を6大会誘致した。また、国際大会等で佐野商工会議所やあそ商工会、JA佐野の役員・会員に対し、大会会場での交流会等の参加を促し、本市の経済関係団体の役員と各国代表との交流を持つことができた。 【成果指標達成状況】 ・「市クリケット場来場者数」は、クリケットの各種大会、ふるさと祭りの開催により、目標を大きく上回った。 ・「クリケット関連産業を通じた域内消費額」は、コロナ禍であったが、ワールドカップ予選等の開催により目標6千万円に対して実績51,804千円で僅かに未達成であった。 ・「クリケット関連移住・定住者数」は、目標5人に対して実績2人で未達成であった。		取組方針 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成 成果指標 <input type="checkbox"/> 全て達成 <input type="checkbox"/> 一部未達成 <input type="checkbox"/> 全て未達成		

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等	施策の成果向上に向けての役割分担		
	<ul style="list-style-type: none"> 国は、2011年「スポーツツーリズム推進基本方針」で基本的考えを示し、2017年「第2期スポーツ基本計画」で、スポーツを通じた地域活性化の具体的な施策として「スポーツツーリズム」を盛り込んだ。 本市においても、本市の代表的スポーツであるクリケットを活用した地方創生事業は、「スポーツによる地域活性化」の機運を高めるものとして、市議会をはじめ関係者に期待されたが、令和元年東日本台風、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響もあり、今後の方向性が懸念されている。 県は、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の有形・無形のレガシーを確実に継承し、スポーツを活用した地域活性化や新しいとちぎづくりに向けて、栃木県スポーツコミッションを設立した。 国は、2016年自転車の活用を総合的かつ計画的に推進するため、自転車活用推進法を策定した。 	市民	事業所	行政

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括	今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症第7波及び第8波があったものの、緊急事態宣言やまん延防止措置がなかったため、クリケット場への来場者数は最小限の影響であった。 令和3年度には中止となっていたツーリズム大会も含め、令和4年度では「SBI大会・エンバシーカップ等クリケット大会」、「さのマラソン大会」、「石井琢朗杯」、「BCリーグ佐野市民デー」「FLVバレーボール」等のツーリズム大会が再開された。 スポーツツーリズムの魅力的な発信が行えなかったことにより、域内消費額が目標に大きく及ばなかった。 大会等の更なる誘致や来訪者の市内回遊が図れなかったため、クリケット関連の域内消費額が目標に達しなかった。 クリケット場に対する市民の認知度が低く、市民来場者が少ない。 いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会において、市民協働による歓迎・おもてなしを行い、市民の機運醸成を図った。また、正式競技ではラグビーフットボール及びバレーボールを実施し、市外からの観覧者5,378人、選手・役員等の延べ宿泊者数3,295人であった。経済波及効果は189,081千円である。 国民体育大会で活躍したボランティアが各種大会に活かされていない。 日本クリケット協会と連携し、国際大会開催時に本市の経済関係団体の役員と各国代表との交流を持つことができた。 施策コストは、令和4年度230,001千円、令和3年度54,381千円、前年と比較し175,620千円の増額となった。主な要因は国民体育大会開催事業費(170,167千円)によるものである。 	【令和5年度で解決する課題】 ・スポーツボランティア登録制度の確立 ・国際クリケット場に来場する外国人の動向を把握し、経済、産業、観光、文化交流等のさらなる推進に繋げる。 【令和6年度以降にも引き継がれる課題】 ①スポーツツーリズムに関する情報を広く発信する。 ②日本クリケット協会と連携し国際大会等の誘致を図るとともに、本市の魅力や国内外に発信し、経済、産業、観光、国際交流等の推進に繋げる。 ③スポーツツーリズムに繋がる大会で来訪した選手・関係者による、域内消費額の増加や地域の活性化に繋げる。 ④国民体育大会のレガシーとして、大会運営において活躍していたスポーツボランティアを活用して行く。 ⑤国際クリケット場を活用した、スポーツツーリズム及び市民が気軽に訪れるような利活用を推進する。 【令和6年度重点課題】 ⑥国際クリケット場に来場する外国人との様々な交流の推進	①SNSを駆使して、スポーツツーリズム大会、イベント等の魅力的な情報発信に努める。 ②国際クリケット場に来訪する外国人について、様々な交流が行えるよう調査研究を行う。 ③大会やイベントにおいて本市の魅力を生かし、市内への回遊を図ることにより、域内消費に繋げる。 ④国民体育大会のレガシーとして、各種大会・イベントにおいて、積極的にスポーツボランティアを活用する。その結果、予算を抑えた大会運営が図れるようにする。また、大会の成果を継承して行うスポーツの推進に係る事業に、佐野市スポーツ推進基金を活用する。 ⑤日本クリケット協会と協力し、大会等の誘致を進めるとともに、市民が参加しやすいイベントやスポーツ大会等を開催する。 ⑥来訪する外国人に対しておもてなしの醸成を図り、市民への情報発信にも努める。